

tan とフィボナッチ数列

数列 $\{a_n\}$ は $a_1 = a_2 = 1$ かつ漸化式 $a_{n+2} = a_{n+1} + a_n$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) をみたすものとする。

自然数 n に対して実数 θ_n を $0 < \theta_n < \frac{\pi}{2}$ かつ $\tan \theta_n = \frac{1}{a_n}$ となるように定める。

- (1) $a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) = a_{n+1}a_{n+2} - (-1)^n$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) が成り立つことを証明せよ。
- (2) $\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2} = \theta_{2k}$ ($k = 1, 2, 3, \dots$) が成り立つことを証明せよ。
- (3) $\sum_{k=1}^{\infty} \theta_{2k-1}$ を求めよ。

< '13 京都市立医科大 >

【戦略】

- (1) 示すべき等式を $a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) - a_{n+1}a_{n+2} = -(-1)^n$ とみて、これを証明します。

$b_n = a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) - a_{n+1}a_{n+2}$ とおき、目に優しくします。

$b_n = -(-1)^n$ ということを示すためには、数列 $\{b_n\}$ が公比 -1 の等比数列であることを目指せばよいわけです。

もちろん、漸化式的に $b_{n+1} = -b_n$ であることを目指すことになるでしょう。

- (2) 細かなことを抜きにすれば、 \tan の服を着せた

$$\tan(\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2}) = \tan \theta_{2k}$$

を示す方向で動きたいところです。

ただ、 $\tan(\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2}) = \tan \theta_{2k}$ が言えたからと言っても、単に中身が等しいとはできません。

基本的に θ_n は $\frac{\pi}{4}$ 以下なので、 $\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2}$ も θ_{2k} も鋭角の範囲内でおさまっています。

そのことに留意しつつ記述すればよいでしょう。

- (3) 部分和 $\sum_{k=1}^N \theta_{2k-1}$ をひとまず考えて、その後 $N \rightarrow \infty$ と極限をとればよいでしょう。

Σ 計算の基本の1つである「差分からの和の中抜け」を狙って

- (2) の等式を $\theta_{2k-1} = \theta_{2k} - \theta_{2k+2}$ と見て差分解します。

【解答】

- (1) $b_n = a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) - a_{n+1}a_{n+2}$ とおく。

$$\begin{aligned} b_n &= a_{n+2}a_n + a_{n+1}a_n - a_{n+1}a_{n+2} \\ &= a_{n+2}a_n + a_{n+1}(a_{n+2} - a_n) \\ &= a_{n+2}a_n + a_{n+1}\{(a_{n+1} + a_n) - a_n\} \\ &= a_{n+2}a_n - a_{n+1}^2 \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} b_{n+1} &= a_{n+3}a_{n+1} - a_{n+2}^2 \\ &= a_{n+1}(a_{n+2} + a_{n+1}) - a_{n+2}^2 \\ &= a_{n+1}a_{n+2} + a_{n+1}^2 - a_{n+2}^2 \\ &= a_{n+1}^2 - a_{n+2}(a_{n+2} - a_{n+1}) \\ &= a_{n+1}^2 - a_{n+2}\{(a_{n+1} + a_n) - a_{n+1}\} \\ &= a_{n+1}^2 - a_{n+2}a_n \\ &= -b_n \quad (\because \textcircled{1}) \end{aligned}$$

$$b_1 = a_1a_3 - a_2^2 = 1 \cdot 2 - 1^2 = 1$$

よって数列 $\{b_n\}$ は初項 1、公比 -1 の等比数列であり

$$b_n = (-1)^{n-1} = -(-1)^n$$

ゆえに、 $a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) - a_{n+1}a_{n+2} = -(-1)^n$

すなわち $n = 1, 2, \dots$ に対して

$$a_n(a_{n+2} + a_{n+1}) = a_{n+1}a_{n+2} - (-1)^n$$

が成立する。

- (2) $a_1 = a_2 = 1, a_3 = 2$ なので、 $n \geq 3$ に対して $a_n > 1$ が成立する。

これより、 $0 < \tan \theta_n \left(= \frac{1}{a_n} \right) < 1$ 、及び $0 < \theta_n < \frac{\pi}{2}$ を考えると

$$0 < \theta_n < \frac{\pi}{4} \quad (n \geq 3)$$

$$\text{自然数 } k \text{ に対し, } \begin{cases} 0 < \theta_{2k+1} < \frac{\pi}{4} \\ 0 < \theta_{2k+2} < \frac{\pi}{4} \end{cases} \text{ が成立し}$$

$$0 < \theta_{2k+1} + \theta_{2k+2} < \frac{\pi}{2} \dots \textcircled{1}$$

$$\text{一方, } 0 < \theta_{2k} < \frac{\pi}{2} \dots \textcircled{2}$$

① から $\tan(\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2})$ は定義されることになり,

$$\begin{aligned} \tan(\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2}) &= \frac{\tan \theta_{2k+1} + \tan \theta_{2k+2}}{1 - \tan \theta_{2k+1} \tan \theta_{2k+2}} \\ &= \frac{\frac{1}{a_{2k+1}} + \frac{1}{a_{2k+2}}}{1 - \frac{1}{a_{2k+1}} \cdot \frac{1}{a_{2k+2}}} \\ &= \frac{a_{2k+2} + a_{2k+1}}{a_{2k+2} a_{2k+1} - 1} \\ &= \frac{a_{2k+2} + a_{2k+1}}{a_{2k+2} a_{2k+1} - (-1)^{2k}} \\ &= \frac{a_{2k+2} + a_{2k+1}}{a_{2k} (a_{2k+2} + a_{2k+1})} \quad \text{(1) を活用} \\ &= \frac{1}{a_{2k}} \\ &= \tan \theta_{2k} \end{aligned}$$

①, ② の範囲を考えると, $\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2} = \theta_{2k}$ が成立する。

(3) (2) の結果から, $\theta_{2k+1} = \theta_{2k} - \theta_{2k+2}$ ($k \geq 1$)

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^N \theta_{2k-1} &= \theta_1 + \sum_{k=1}^{N-1} \theta_{2k+1} \\ &= \theta_1 + \sum_{k=1}^{N-1} (\theta_{2k} - \theta_{2k+2}) \\ &= \theta_1 + \{ (\theta_2 - \theta_4) + (\theta_4 - \theta_6) + \dots + (\theta_{2N-2} - \theta_{2N}) \} \\ &= \theta_1 + \theta_2 - \theta_{2N} \\ &= \frac{\pi}{2} - \theta_{2N} \quad (\because \theta_1 = \theta_2 = \frac{\pi}{4}) \end{aligned}$$

数列 $\{a_n\}$ は単調増加で, $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \infty$

ゆえに, $\lim_{n \rightarrow \infty} \tan \theta_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{a_n} = 0$ であり, $\lim_{n \rightarrow \infty} \theta_n = 0$

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{\infty} \theta_{2k-1} &= \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^N \theta_{2k-1} \\ &= \lim_{N \rightarrow \infty} \left(\frac{\pi}{2} - \theta_{2N} \right) \\ &= \frac{\pi}{2} \quad \dots \text{答} \end{aligned}$$

【総括】

① より, $a_{n+2} a_n - a_{n+1}^2 = (-1)^{n-1}$ が成立します。

これはフィボナッチ数列に関して付随する有名な

「カッシーニ・シムソンの定理」

というものです。

また, 今回の(2)で扱った, $\theta_{2k+1} + \theta_{2k+2} = \theta_{2k}$ という性質は

$$\left\{ \begin{array}{l} \tan \theta_{2k} = \frac{1}{a_{2k}} \\ \tan \theta_{2k+1} = \frac{1}{a_{2k+1}} \\ \tan \theta_{2k+2} = \frac{1}{a_{2k+2}} \end{array} \right. \text{であることから} \quad \left\{ \begin{array}{l} \theta_{2k} = \text{Arctan} \frac{1}{a_{2k}} \\ \theta_{2k+1} = \text{Arctan} \frac{1}{a_{2k+1}} \\ \theta_{2k+2} = \text{Arctan} \frac{1}{a_{2k+2}} \end{array} \right.$$

なので, $\text{Arctan} \frac{1}{a_{2k+1}} + \text{Arctan} \frac{1}{a_{2k+2}} = \text{Arctan} \frac{1}{a_{2k}}$

が言えます。

例えば, $\text{Arctan} \frac{1}{a_3} + \text{Arctan} \frac{1}{a_4} = \text{Arctan} \frac{1}{a_2}$ です。

これより, $\text{Arctan} \frac{1}{2} + \text{Arctan} \frac{1}{3} = \frac{\pi}{4}$ といえるでしょう。

さらに, (3) の $\sum_{k=1}^N \theta_{2k-1} = \theta_1 + \theta_2 - \theta_{2N}$ において, $N=3$ としてみると

$\theta_1 + \theta_3 + \theta_5 = \theta_1 + \theta_2 - \theta_6$, すなわち, $\theta_3 + \theta_5 + \theta_6 = \theta_2$ であり

$$\text{Arctan} \frac{1}{a_3} + \text{Arctan} \frac{1}{a_5} + \text{Arctan} \frac{1}{a_6} = \text{Arctan} \frac{1}{a_2}$$

となります。

これは,

$$\text{Arctan} \frac{1}{2} + \text{Arctan} \frac{1}{5} + \text{Arctan} \frac{1}{8} = \frac{\pi}{4}$$

ということを意味します。

以前に実践演習で

「マチンの公式とその周辺の等式」

というものを扱いましたが, 本問はそれに付随するトピックスです。